

令和3年度第1回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録

日 時 令和3年7月16日（金）午前9時40分～11時40分

場 所 多摩市立図書館 本館 講座室

出 席 おはなしチャチャチャ、コアラ文庫、多摩おはなしの会、
多摩市文庫連絡協議会、もりの文庫

欠 席 つくしんぼ文庫、ひなたぼっこ、ひなの会、布の絵本サークル ピエロ

（事務局）

コロナ対策として距離をとり、換気をしながら時間短縮し開催する、ご理解願いたい。

開会

（事務局）

（資料の確認）

（事務局）

（職員の紹介）

1 令和2年度第2回 第三次多摩市子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会 要点録（案）の確認

（事務局）

- ・一か所、事務局から訂正がある。6ページに「第11回子ども読書まつり」とあるが、令和2年度に中止となった回をカウントすることとなったため、「第12回子ども読書まつり」に修正をお願いしたい。

（会長）

- ・特に意見がないため、確定とする。

2 新委員の紹介（委員の変更について）

（事務局）

- ・資料1は、今年度の各連絡会の委員名簿である。市の職員については人事異動等で変更があったため、配付する。

- ・市民ボランティア連絡会では、コアラ文庫はこれまで代表者が会議に参加されていたが、令和3年4月1日から代理人が参加されることとなった。

(委員自己紹介)

(多摩おはなしの会)

- ・委員名簿では、つくしんぼ文庫からの会議参加者の肩書が代表者と書いてあるが、今は代表ではなく、代理である。

(事務局)

- ・後程確認しておく。

3 報告事項

(1) 令和2年度子どもの読書活動に関する事業（実績）

(事務局)

(資料に基づき説明)

質問

(コアラ文庫)

- ・多読コーナーの利用状況はどのような状況か。利用している様子を実際に見たり、カウンターに入っている職員から報告等は受けているのか。
→ (事務局) 現在報告は受けていないが、PRに力を入れている。多摩市立図書館ニュース高学年版で、多読コーナーを紹介した。小学4～6年生全員の手に渡っている。また、関係機関にもPRしている。追跡調査はできていないが、今後利用状況に注視していく。

(コアラ文庫)

- ・多読コーナーの導入は、小学校での英語教育の開始に対応できるようにという意味もあるのか。
→ (事務局) そうである。これまで多読の本は各館に分散していたが、目に留まりやすいよう、本館に集めて棚を作った。今後も継続的にPRをしていく。

(コアラ文庫)

- ・本館に本を集めてコーナーを作ったということは、逆に他の館が手薄になったということではないか。今後他館にもこのコーナーを広げていければよいと思う。

(コアラ文庫)

- ・「よんでみよう！」の改訂について。「文字を習ったばかりでは文字を追うことに精いっぱい」「身近な大人に読んでもらうことで、物語の面白さに気づく」という保護者への呼び掛けの文が、今回初めて表紙に入った。これについて、知り合いの学校司書の方が、良いことであり、また、内容も充実したと感想を言われていた。
- ・掲載冊数は以前より増えたのか。
 - (事務局) 掲載冊数はこれまでと同じだが、「よみもの」や「むかしばなし」等、内容のカテゴリー分けをした。保護者の方に訴えかけるには、「よんでみよう！」の表紙に呼び掛け文を掲載するのが効果的と考え、今回このような形となった。

(コアラ文庫)

- ・多摩市立図書館ニュースは、以前からあったのか。
 - (事務局) 今年初めて発行した。後程説明する。

(多摩おはなしの会)

- ・推進連絡会の報告について。他の連絡会でどんな議論をしたのか、私たちにはわからない。毎回市民ボランティア連絡会の要点録は作っていただいているが、市民ボランティア連絡会での議論の内容は、他の連絡会で紹介していただいているのか。
 - (事務局) 推進連絡会では、各連絡会の内容報告をしている。

(多摩おはなしの会)

- ・報告は口頭で行っているのか。
 - (事務局) 「こういう議題があった」という報告をしている。

(多摩おはなしの会)

- ・要点録を各委員に配布してもらえれば、どんなことが議論になったのか、より詳しくわかるのではないかな。もう少し意思疎通が細やかにできればいいと思う。
 - (事務局) 推進連絡会の会議録は、ホームページで公開している。

(多摩おはなしの会)

- ・公開しているならば、会議の際に「ぜひお目通しください」などと働きかけていただけると嬉しい。

(コアラ文庫)

- ・時間的に難しいこともあるのではないかな。例えば、10月の推進連絡会の記録を12月の市民ボランティア連絡会までに見ることができるならとても有効だが、記

録の完成がもっと後になる場合もあるのではないかな。

→（事務局）公開する記録は推進連絡会と市民ボランティア連絡会の2つだが、小・中学校連絡会や庁内連絡会も記録を作成している。会議回数が多く、記録の作成にも時間を要する。会議出席者への確認等もあるので、すぐに配付・公開することは難しい。タイムラグはあるが、記録が完成したらホームページで公開している。速やかに行えるようにしたいと考えている。

（コアラ文庫）

- ・それぞれの会議が連携してこそ、色々なものが見えるのではないかな。
- （事務局）そうであれば、各連絡会の内容を口頭でお伝えするようにする。

（多摩おはなしの会）

- ・口頭でも報告していただければありがたい。しかし口頭では、要点録のように細かな部分まで伝えるのは難しい。市民にはどのような意見があるのかということ、推進連絡会の委員に知ってもらえたら嬉しい。

（もりの文庫）

- ・要点録の確定には時間がかかると思う。しかし、コロナ禍でのおはなし会で「わらべうた」を取れ入れることについて検討してほしいと前回の連絡会で話したが、それについてのフィードバックがなく、どうなったのか、と思っていた。コロナの感染状況等も日々変化している。会議開催から記録の確定まで日が開き、何か月も前のことになってしまうと状況が全く変わってくるので、こんな意見があった、ということだけでも、他の連絡会で伝えていただきたい。
- ・令和2年度のおはなし会の開催は令和元年度と比べ非常に少なかった。活動できていないおはなし会ボランティアはどうして活動できていないのかという視点が必要。おはなし会が一時期中止となっていたことは関係があるのか、図書館の環境の問題なのか、どんな不安があるのかを考えなければならないのではないかな。せっかくおはなし会が定着し、開催が増えていったのに、コロナの影響で思うように開催できていない。図書館がおはなし会を中止にしたからできていないのか、どうしてなのかを目を向けないと、おはなし会を再開したときに、ボランティアが戻ってこなくなるのではないかな。
- ・多摩市の感染対策を考え、決めている部門があると思うが、多摩市の児童館や子育てに関する施設でのおはなし会と、図書館のおはなし会とでは、対応が違っているような気がする。その違いは何なのか。児童館では、感染対策をしておはなし会を続けており、「たまっこ」でもおはなし会を継続している。同じ多摩市の感染対策

に基づいて決定しているのだと思うが、この対応の違いには、市民として疑問に感じる。

(コアラ文庫)

- ・対応の記録は取っているようなのでどう対応したかはわかるが、どう考えてその対応をしたのかという記録を残してほしい。将来的にも役に立つのではないか。

(2) 令和3年度子どもの読書活動に関する事業予定（主なもの）

(事務局)

(資料に沿って説明)

質問

(コアラ文庫)

- ・多摩市立図書館ニュースを作成したのは子ども読書支援係か。他の係の協力も得たのか。
→ (事務局) 情報提供はしていただいた。紙面作成は子ども読書支援係が行った。

(おはなしチャチャチャ)

- ・図書除菌機は個人的に使用できるのか
→ (事務局) 図書館の本の除菌であれば、自由に使用できる。

(多摩おはなしの会)

- ・多摩市立図書館ニュースは、年に何回か出す予定はあるのか
→ (事務局) 年に1回の予定である。毎年続けていきたいと思っている。

(コアラ文庫)

- ・多摩市の全児童への配付ですね。中学生向けはあるのか。
→ (事務局) 全児童に配付している。中学生向けのものは検討中である。

(コアラ文庫)

- ・電子図書館について。多摩市電子図書館が所蔵する児童向けの電子書籍を見たが、動く絵本がかなりある。楽しめるかもしれないが、動画と同じもののように感じた。今は多くの人が動画を手軽に視聴できる状況である。また、絵本もダウンロードして閲覧できるような環境にもなっている。
- ・図書館は資料を購入し閲覧できるようにするため予算を使っているが、先日コロナ

対策費として、1000万の追加費用が報告されていた。これは一時的なものかもしれない。一度始めたものは継続していかないと意味がない。または今後数年間だけのものである場合、本当に役に立つものであれば、お金をかけるべき。

コロナ対策として「非接触型」の電子図書館というのはわかるが、一時的なものに大きな金額をかけて、本当に子どもたちの役に立つのか。現在は過渡期であると思うが、議論が必要だと思う。市民ボランティア連絡会でも議論し、その内容を図書館へ伝えられる体制が大切ではないか。子ども読書支援係だけでなく、図書館全体として話し合うことだと思うが、課題として共有できたら良いと思った。電子書籍の導入によりコンテンツが増えて嬉しい市民もいるかもしれないが、その1000万円を資料費にしてくれたらよかったという意見もある。今は複本がない絵本だが、複本を購入してほしい等、ボランティアの間でも話が出る。このような意見も、図書館内で共有し、検討していただければと思う。

(もりの文庫)

- ・これまで電子図書館サービスを利用したことはなかった。しかし図書館が電子図書館事業を進め、子どもたちに電子書籍を提供するのであれば、一度接してみて、どんなものなのか考えてみる必要があると感じた。
- ・おはなし会を再開できてない団体は、現在どのような状況なのかが気がかりである。現在はコロナの影響でおはなし会が思うようにできない、また、緊急事態宣言が発出されれば中止という状況で、今後コロナでの制限がなくなったとき、スムーズに再開ができるのか心配である。ボランティアの育成や、図書館との関係も課題となるのではないかと。図書館との間で、確認できる体制がほしい。今から考えておかなければ、コロナが収束したときに困るのではないかと。

4 意見交換 コロナ禍での各館おはなし会について

(事務局)

(資料12に沿って説明)

(おはなしチャチャチャ)

- ・図書館にくる子どもの数自体が減っていると思うが、コロナ禍において、子どもが図書館に足を運ぶ手立ては何か考えているか。
- (事務局) 夏休み中、展示等の催し物を各館で行う。展示プラスアルファの企画もある。感染リスクの無いような形で取り組んでいる。ホームページに情報を掲載しているのでご覧いただきたい。

(もりの文庫)

- ・前回の連絡会で、わらべうたは一般的な歌とは違うと話をした。それを踏まえても、コロナ禍のおはなし会でわらべうたを取り入れることについて、検討の余地はないという決定に少々がっかりした。
- ・「おはなし会実施の際の感染拡大防止策（遵守事項）」に、「マスクかフェイスシールド、またはその両方を着用」とあるが、現在フェイスシールドはマスクの代わりにはならないとわかっている。新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況はどんどん変化し、また対策も更新されてく。いつまでも「マスクかフェイスシールド」と書いていること自体に驚く。私たちも、以前はフェイスシールドのみ着用し、距離を取っておはなしができないかと考えていたが、今はマスクをした状態でいかに声を通すかということを考えている。
- ・おはなし会に関する子育て施設と図書館の対応の違いについては、一度確認していただいて、今後のおはなし会再開などについて返答をいただきたい。

(多摩おはなしの会)

- ・緊急事態宣言下でおはなし会を中止する理由を、おはなし会に関わるボランティアへ、図書館からきちんと説明をしてほしい。児童館ではおはなし会を行っているが、図書館では緊急事態宣言が発出されれば中止となる。市民からすると、この対応の違いは疑問である。

→ (事務局) 緊急事態宣言が発出されている間は、都民に外出自粛をしていただくために、おはなし会は中止とするのが適切だと考えたため、このような対応をしている。参加する方のことも考えたが、申し訳ないが中止せざるをえないという結論である。

(もりの文庫)

- ・もりの文庫での活動ではないが、9、10月に学校で行うおはなし会について、学校とやり取りしている中で、校長先生が、「どんな状況でも、基本的には今回のおはなし会を実施する。実施に当たり、どんな対策をするかを考えていきましょう。」と話していたことを、担当者から聞いた。校長先生の言葉がとても嬉しかった。クラスごとに行うため回数が多く大変だが、学校側が考えてくださった感染対策を受け入れて実施しようと思っている。
- ・緊急事態宣言が発出されたら即中止にするのではなく、どんなことでも「基本は実施」で、その上でどんな感染対策をするのが重要なのではないか。

(多摩おはなしの会)

- ・おはなし会の中止は外出を控えてもらうためということだが、図書館は開館している。おはなし会は、市内で実施するのであって、参加者は遠くに出かけるわけではない。公共交通機関を使う方もいるのかもしれないが、おはなし会に参加することで、人流に大きな影響があるのか、考えてほしい。
- ・大規模でなくても、図書館に来た子たちに向けてのおはなし会の開催は検討できると思う。コロナ以前も、一回のおはなし会参加者は何十人もいたわけではない。図書館側の説明は、これまでのおはなし会を見ずに判断したような、実態からかけ離れた判断のように感じられる。

(コアラ文庫)

- ・たまっこでは、秋におはなし会を再開してから継続して開催できている。たまっこは、親子がフリーに過ごせる場所だが、おはなし会がある日を目指して来場する方もいる。最初はフェイスシールドのみ着用して行っていたが、2回目の緊急事態宣言が出てからはマスクのみ着用で行っている。また、歌も取り入れている。歌うときは、演者3人のうち1人だけにしている。
- ・「おはなし会を再開しました」ということになると、対策をして実施しているとアピールすることになるので、逆に安心できる利用者もいるのではないか。もちろん人数制限や、予約制にすることも必要かもしれないが、昨年、参加者が多くて困ったということはなかった。
- ・3回目の緊急事態宣言が発出されたときも、図書館サービスを予約本の受け取りだけにした自治体も多かったが、多摩市の図書館は開館していた。これは市民の声にきちんと図書館は応えていきましょうという、上層部の方の姿勢の表れだと思う。万が一のことがあったらという不安が担当者にはあるかもしれないが、問題が起きるより、喜ばれることの方が多いのではないか。

(多摩おはなしの会)

- ・人数制限をしたり、短時間で行ったりと、これまでとは違ったやり方で構わないので、緊急事態宣言下でもおはなし会を開催する方向で検討してほしい。
- ・歩いて行ける地域館でのおはなし会は、今の時期必要だと感じる。

(文庫連絡協議会)

- ・図書館としては、緊急事態宣言下における責任を強く感じていると思う。ただ、小さい子は、コロナで1年半くらい自由を奪われており、この先もいつコロナが収束するかわからない状況である。大人と違い、小さい子の1年はその子にとってとても大きなものである。人数制限等の対策をして、できるだけおはなし会を実施できるよう、

方法を探してほしい。おはなし会は、親に本を読んでもらうのとはまた違った楽しみがある。

(コアラ文庫)

- ・もうすぐ夏休みになり、家にずっといる子どもたちの行先の一つとして図書館がある。図書館に来た子どもたちに、15分でもおはなしに集中できる時間を作ってあげられれば、「この夏はよかったね」と思ってもらえるのではないかな。

(多摩おはなしの会)

- ・緊急事態宣言下の夏休みは、子どもたちにとっては行き場がない。子どもへのサービスが、子どもたちにきちんと行き渡るようにしてほしい。
- ・前回の連絡会で、「おはなし会での歌は音楽の時間の歌とは違い、合唱のようなことはしない」とあれだけ話したのにも関わらず、歌についてのルールが何も変わっていない。おはなし会で歌をどのように取り入れているのかを知らないで作られたルールのように思える。「皆で一斉に大きな声で歌うことはやめましょう」というような指示ならわかるが、歌を一律に禁止するのは理解ができない。
- ・分館は、上の指示をそのまま伝えてくる。緊急事態宣言が発出される以前、赤ちゃんおはなし会のための打合せを拠点館で行った。その際、職員に、「歌は歌えないので本を読むだけにしてください」と言われた。歌うことが禁止されているのはなぜなのか聞いたところ、「全員が同時に発声するため」ということだった。図書館は赤ちゃんおはなし会をどう認識されているのか、疑問に感じた。

(もりの文庫)

- ・おはなし会で歌う歌や、わらべうたについて、もう一度図書館には考えてほしい。ただ「歌」という言い方・書き方だとどんな「歌」を指しているのかわからないので、そこははっきりと指示をしてほしい。私たちボランティアは、「みんなは小さく歌ってね」と言うなど、感染対策についても考えている。
- ・緊急事態宣言がまた発出されたため難しいかもしれないが、ボランティアは無理でも図書館職員がおはなし会を行うこともできるのではないかな。開催する方向で検討してほしい。かなりの市民が、おはなし会を開催してほしいと思っているのではないかなと思う。

5 情報交換及び次回の日程について

(会長)

- ・次回は10月下旬に開催する。

今回は金曜日の開催で、欠席者が多い。本来、この会議は木曜日に開催しているので、できるだけ木曜日に開催していただければと思う。

次回開催日

10月28日 14時～16時 講座室

(文庫連絡協議会)

- ・「文庫連だより」と「多摩市に中央図書館をつくる会ニュース」を配付する。

(コアラ文庫)

- ・第30回多摩市平和展のチラシを配付する。文庫連は昨年からは平和市民会議に出席しており、今回「平和のメッセージ」という展示と、おはなし会で紙芝居をやらせていただく。

閉会

(午前11時40分終了)